

台座

薬師如来が座っている大きな長方形の台座には、彫刻で飾られています。彫刻からは、7世紀の日本と、東西を結ぶ古代の交易路であるシルクロードによって日本が世界的に交易をおこなっていたことについて、興味深い洞察をすることができます。台座は、上部に2つ、下部に4つ、計6つの異なる大きさの框と、それらの間に挟まれた長方形の「箱」で構成されています。最上部の框を飾るのはギリシャを表すブドウの蔓のイメージで、その下のもの（および箱の垂直方向の端）はペルシャの蓮の花の彫刻が彫られています。箱の各面には、「蕃神」（「野蛮人」または「遠くの国の人々」）の描写があります。ここにはヒンドゥー教の影響が見られます。その下の次の土台の中央には、台座の両側に1つずつ、中国神話の「四神」または「四獣」が描かれています。獣はそれぞれ、基本的な方角、季節、色だけでなく、美德や中国の木、火、金属、水、土の要素とも関連付けられています。台座の東側から反時計回りを見ると、これらの神話上の生き物は、青龍、朱雀、白虎、玄武（台座の脇、あなたの正面にある）の順に配置されています。台座は、このように時代の国際性と、奈良がシルクロードの最東端として知られている理由を反映しています。